

トマトキバガ情報第2号（トマト）

令和7年11月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

フェロモントラップにおける誘殺数が増加しています

1 トマトキバガの発生状況

愛知県内の5地点に設置したフェロモントラップについて、昨年は9月頃から誘殺数が増加しましたが、今年も同時期に増加しています。また、昨年と比較して誘殺数が増加傾向にあり、田原における誘殺数（9月から10月）は187頭（昨年0頭）と増えています（図1）。一部地域では、トマト施設内での被害も確認されていますので、ほ場をよく見回り、発生が確認されたら速やかに防除を行いましょう。本虫の詳細な生態については、令和6年9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参照して下さい。

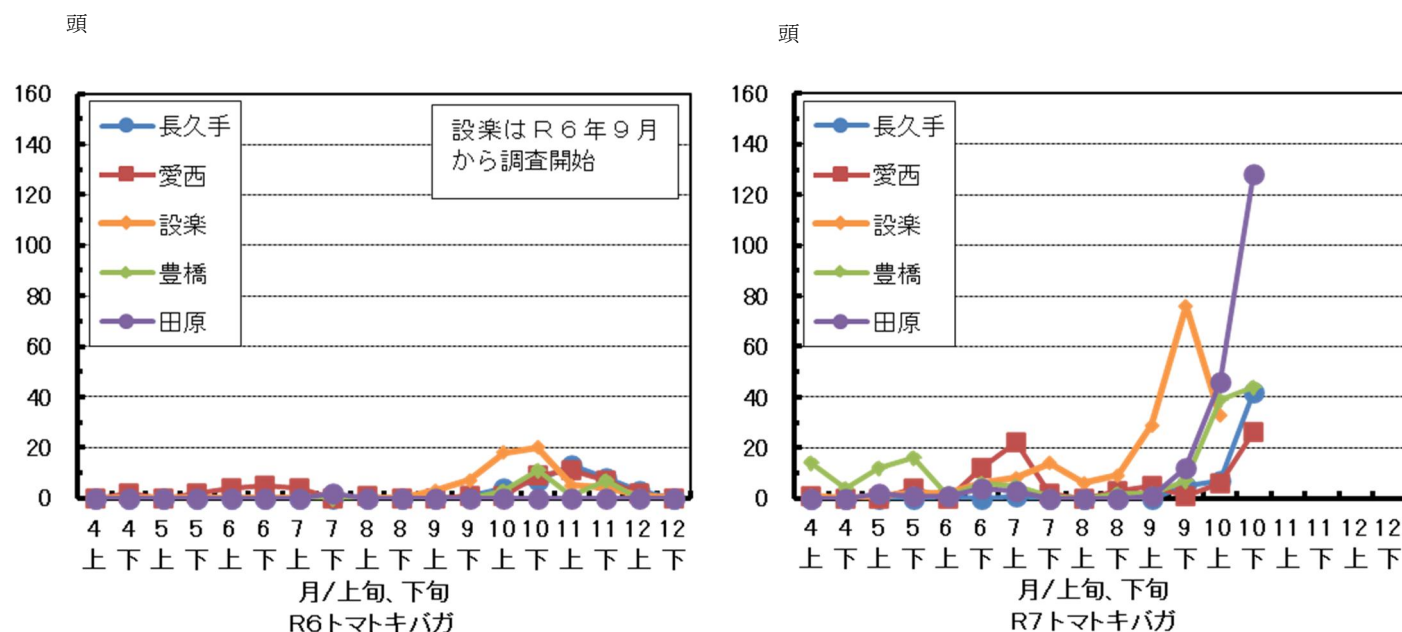


図1 フェロモントラップにおける誘殺数の推移（左：R6年、右：R7年）

2 防除対策

- (1) 施設栽培では、開口部に0.4mm目合いの防虫ネットを張ることが推奨されます。ネット等の破れやすき間は補修し、本虫の施設内への侵入を防ぎましょう。
- (2) ほ場内をよく見回り、本虫や疑わしい被害葉及び果実（写真1～4）があった場合は、登録のある農薬で防除しましょう（表1）。薬剤感受性低下を防ぐため、同一系統（IRACコード）の薬剤を連続使用しないよう注意しましょう。
- (3) 本虫による被害葉及び果実はハウス周辺に放置せず、速やかに土中に深く埋却するなどして寄生した成幼虫を全て死滅させ、適度に処分しましょう。また、収穫残渣も本虫の増殖源になり得るため注意しましょう。

(4) ほ場で本虫を初確認した場合、最寄りの農業改良普及課または病虫害防除室（下記）へご連絡ください。

3 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-41-9513（ダイヤルイン）



写真1 トマトキバガ成虫（前翅長約5mm）
（農林水産省植物防疫所原図）



写真2 トマトキバガ終齢幼虫



写真3 トマトキバガによる葉の食痕

茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。
ハモグリバエ類では線的な食害痕となるのに対し、トマトキバガでは面的な食害痕となる。



写真4 トマトキバガによる果実被害

果実表面に数 mm 程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する。

表1 トマトキバガに登録のある農薬 令和7年11月4日現在

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	適用作物		IRAC コード
				トマト	ミニトマト	
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	5
ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	ー, 5
アグリメック	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○		
アニキ乳剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	6
アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	
エスマルクDF	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	ー	○	○	
ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	ー	○	○	11A
チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	ー	○	○	
デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	ー	○	○	
コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	13
トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		22A
ファイントリムDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		
アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	22B
フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	
ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	28
プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
グレース乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	30
プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	UN

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細はhttps://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。